

第 31 回検討委員会(令和7年 11 月 14 日)
における意見及び検討結果(黒瀬川水系)

第 31 回 広島県河川整備基本方針等検討委員会における意見及びその後の検討結果

No	分類	項目	委員会における意見等	委員会当日の事務局回答	その後の検討結果（案の修正等）	本文に関わる対応
1	治水	対象洪水群の棄却判定	○田中委員 黒瀬盆地の中流域は降雨量が多いなど考えられるため、時間分布の確認はもう少し短いスパンで計算してほしい。（例えば、1時間雨量と3時間雨量。3時間雨量は、気象庁の線状降水帯の判断基準の一つである100mm/3hr）	次回に結果を説明する。	1時間雨量と3時間雨量が異常引き伸ばしになっていないか確認した結果、新たに棄却される洪水はないことを確認した。 「巻末1参照」	
2		二級ダムの活用	○安藤委員 二級ダムは中国電力管轄であるが、下流域の計画高水も含めて、ダム管理が洪水調節機能の役割として大きい。流域治水ということで中国電力に参画いただき、議論することが必要である。	二級ダムは電力と水道目的である。治水的な位置付けがなくこのような記載になっているが、どのように記載するかについて検討する。	「1.2 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項」に、次の記載を追加する。 「こうした流域の特性を踏まえ、集水域と氾濫域を含む流域全体で水災害リスクを低減することを目的に、ため池や雨水貯留浸透施設の管理・保全及び既存ダムの事前放流の実施等、流域内のあらゆる関係者が協働して行う総合的かつ多層的な流域治水の推進に向け、関係者の意識醸成を図るとともに、既設管理者との相互理解・協力の下で関係機関と連携し取組を進める。」	○
3		比流量図	○内田委員長 比流量の比較で、気候変動を考慮した黒瀬川とその他で「バランスが取れている」という表現はおかしいのではないかと。この図を示す目的を示してほしい。	黒瀬川自体が大きな二級河川であり、計画規模も大きい。ご指摘のとおり、気候変動考慮後のプロットであり、表現については再度検討する。	■比流量図を示した目的 今回設定した黒瀬川の基本高水ピーク流量が、県内の他河川における流域面積と比流量の関係と比較して、異常な値となっていないかを確認すること。 ■確認結果 気候変動後の黒瀬川の比流量は、気候変動前の県内の他河川のプロット分布の範囲内であることを確認した。また、気候変動前後の比流量の増加幅は、中国地方の一級水系の他河川における増加幅とほぼ同程度であるため、今回設定した基本高水ピーク流量は異常な値ではないことが確認できた。 「巻末2参照」	
4	利水	ため池の保全	○増村委員 東広島市はため池が多いということが書かれていない。崩壊による死亡事故が発生する可能性が高いのではないかと。	不要なため池は廃止にする取組があると聞いている。一方で、黒瀬川ではため池の重要性として、上流域で流量カットしていることから、今後関係部局と調整する必要があると考えている。 今回の河川整備基本方針は河川計画の大きな方針である。具体的な取組を定める河川整備計画があり、どちらに記載するべきかも含め、検討する。	ため池については次の通り本文に記載している。 「黒瀬川流域の特性の1つとして、農業用水の不足を解消するために建設された流域内の千数百箇所のため池が、流域への流出抑制に寄与していることが挙げられる。こうした流域の特性を踏まえ、集水域と氾濫域を含む流域全体で水災害リスクを低減することを目的に、ため池や雨水貯留浸透施設の管理・保全等、流域内のあらゆる関係者が協働して行う総合的かつ多層的な流域治水の推進に向け、関係者の意識醸成を図るとともに関係機関と連携し取組を進める。」	
5	環境	正常流量	○増村委員 阿賀地区はへドロで臭い。これが流量の少なさに起因するのであれば、対策を考えないといけない。	—	ご指摘の地域は大谷川の河口周辺であるため、黒瀬川の基本方針の本文には記載しないこととするが、呉市に情報を共有しながら必要があれば対策をとっていく。なお、「呉市環境調査報告書」を公表している呉市環境試験センターに確認したところ、広の工業地帯全体の悪臭については把握しており、工場を中心に調査を行っているが、黒瀬川の河口付近でへドロによる悪臭の情報はないとのことであった。また、工場等に対し必要な指導は行っていること、把握している悪臭は河川由来ではないことを確認している。	
6		親水に関する記載	○増村委員 河川環境の項目について、川に親しむことについての項目が1つあってもよい。 説明資料P16の「1.4 河川環境の整備と保全に関する事項」に記述があるが、タイトルに親水を加えるなど、やりようがある。	川に親しむことは、昔はこの川でも行われていた。黒瀬川も可能なところは記載があっても良いため、どのような記述ができるか検討したい。 表題の書きぶりは定型のため変更できないが、親水については今後検討する。	「1.4 河川環境の整備と保全に関する事項」に記載の文章を、次のとおり修正する。 「河川空間の利用に関しては、水辺に親しみやすい環境整備に努めるとともに、河川環境に関する現状と課題について地域住民に広報することにより、住民が河川に対して関心や親しみを持てるような川づくりを進める。併せて、河川愛護の意識啓発を図り、河川環境への理解を深めることで、持続可能な親水環境の確保・創出に努める。」	○

No	分類	項目	委員会における意見等	委員会当日の事務局回答	その後の検討結果（案の修正等）	本文に関わる対応
7		動植物の確認	○増村委員 椋梨川は近隣河川なので、黒瀬川にもいるかもしれない。オオサンショウウオが生息しているか確認してほしい。	東広島市域の上流域の豊栄町や中南部では生息していたと記憶しているが、黒瀬川水系の支川かどうかは改めて確認する。	オオサンショウウオについては、黒瀬川流域のごく一部の支川において10年以上前に生息が確認されているが、近年では生息が確認されていないため、本文には記載しないこととする。	○
			○河合委員 説明資料 P6 の魚類の重要種について、ヤリタナゴが記載されていない。黒瀬川は広島県内で最もヤリタナゴが多い場所であり、タナゴ類は健全な河川のシンボルである。タナゴ類やアブラボテが生息している様であれば整理してほしい。	文献調査ではヤリタナゴを確認しているため、記載したい。	「1.1 流域の現状 (2)河川及び流域の自然環境」に次の記載を追加する。 「支川を合わせながら川幅を広くした中流部では、砂や砂礫の河床を滞筋が左右に頻りに移動するなど、緩やかな流れの比較的大きな瀬、淵が連続し、ヨシ等の植生も豊かであり、湾曲部にはメダケ等の河畔林も生育している。魚類も、オイカワ、カマツカ、ヨシノボリ類や外来種のオオクチバス、ブルーギルなどに加え、流れのほとんどない淵を生息場とする絶滅危惧種のスナヤツメ南方種や、水際の浅瀬を好み、水草等を産卵場とするミナミメダカのほか、支川には二枚貝を産卵母貝とするヤリタナゴも見られるなど、変化に富んだ河道となっている。」	
8		動植物の生息環境	○河合委員 説明資料 P13 に「動植物への生息・生育への支障はなく課題がない」としているが、松板川の樋ノ詰橋付近では、時期によっては水が滞筋しか流れていない。異常気象で渇水影響が大きい、大きな淵を確保しておけば、生物の隠れ場所になり、流量が少ない時はそこに逃げ込めるため、本支川の淵を確保することが重要である。	ご指摘のとおり、本川に主眼を置いて記載であるが、支川についても確認する。また、基本方針と整備計画のどちらで記載するかについて、改めて回答する。	正常流量の検討において、利水基準点は本川であるため、「動植物への生息・生育への支障はなく課題がない」と記載したが、ご指摘のとおり支川についても生物の隠れ場となる淵の確保が重要と考えている。従って、「1.4 河川環境の整備と保全に関する事項」に次のとおり記載している。 「河川環境の整備と保全に関しては、貴重な魚類であるスナヤツメ南方種、ドジョウ、ミナミメダカなど動植物の生息・生育環境である滞筋、瀬、淵や河口部の干潟など多様な環境の保全に努めるほか、・・・」 「河川改修を行う際には、・・・動植物の生息・生育場となっている河床部の滞筋や瀬、淵等の復元を図るとともに、・・・」	
9	維持管理	堆積土砂	○安藤委員 昨今、クマが注目されているが、鹿により山が荒れ、土砂の流入が増えているため、時代の流れを汲んだ記載をしてはどうか。 中小河川では堆積土砂で河床が上がっており、川が浅くなっていることへの対応が必要である。現地視察でも浅い川という印象で、影響が大きい。	人の住み方が変化しており、山の現状が変化していることは事実である。時代の流れを汲んだ表現とするという観点は重要と考えているので、検討する。	「1.1 流域の現状 (4)治水・利水・河川環境の現状と課題 1)治水」の文末に、次の記載を追加する。 「また、近年、全国的にシカ食害による植生被覆度の減少に伴う表層土砂の流出が問題となる中、黒瀬川においても、表層土砂の流出等に起因する堆積土砂への対応が課題となっている。」	○
10	その他	流域の歴史	○鈴木委員 説明資料 P11 の流域の歴史について、最新の研究や調査の状況に合わせて修正した方が良い。私の方で案を作成し、次回の委員会までに事務局に送付する。	そのように進めたい。	「1.1 流域の現状 (3)流域の社会環境」の文章を、委員の意見を踏まえて全体的に修文する。	○

[巻末 1]

【意見内容】

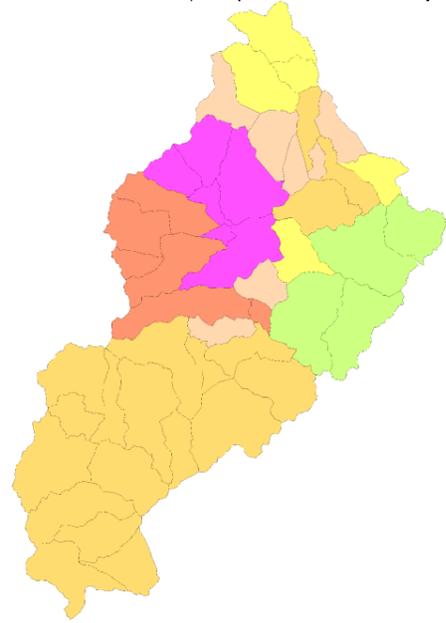
○田中委員
 黒瀬盆地の中流域は降雨量が多いなど考えられるため、時間分布の確認はもう少し短いスパンで計算してほしい。(例えば、1 時間雨量と 3 時間雨量。3 時間雨量は、気象庁の線状降水帯の判断基準の一つである 100mm/3hr)

【降雨分布の確認】

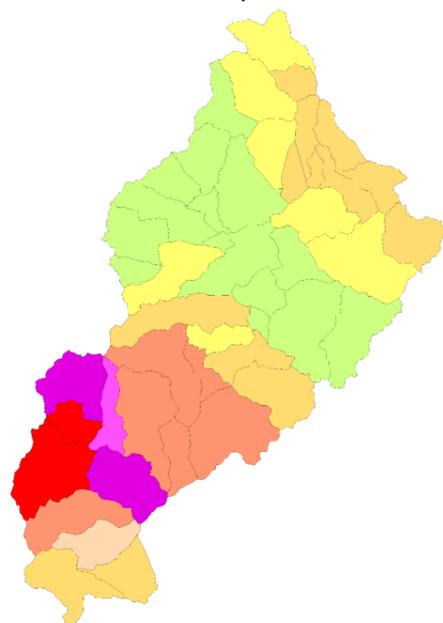
計画対象洪水群 (13 洪水) は、様々な降雨パターンを含んでいることを確認した。

計画対象洪水群の降雨パターン

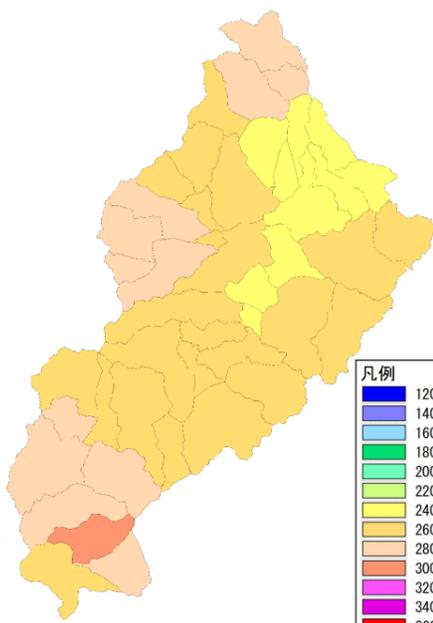
No.	洪水名	降雨パターン	No.	洪水名	降雨パターン
1	H5. 7. 2洪水	上中流域集中型 (C1)	8	H25. 6. 20洪水	均一型 (C3)
2	H5. 7. 27洪水	均一型 (C3)	9	H25. 9. 4洪水	均一型 (C3)
3	H13. 6. 20洪水	均一型 (C3)	10	H28. 6. 23洪水	中下流域集中型 (C2)
4	H16. 8. 1洪水	中下流域集中型 (C2)	11	H30. 7. 5洪水	均一型 (C3)
5	H17. 9. 7洪水	中下流域集中型 (C2)	12	R3. 7. 6洪水	上中流域集中型 (C1)
6	H21. 7. 25洪水	均一型 (C3)	13	R3. 8. 14洪水	均一型 (C3)
7	H22. 7. 14洪水	中下流域集中型 (C2)			



平成 5 年 7 月 2 日型洪水
上中流域集中型 (C1)



平成 17 年 9 月 7 日型洪水
中下流域集中型 (C2)

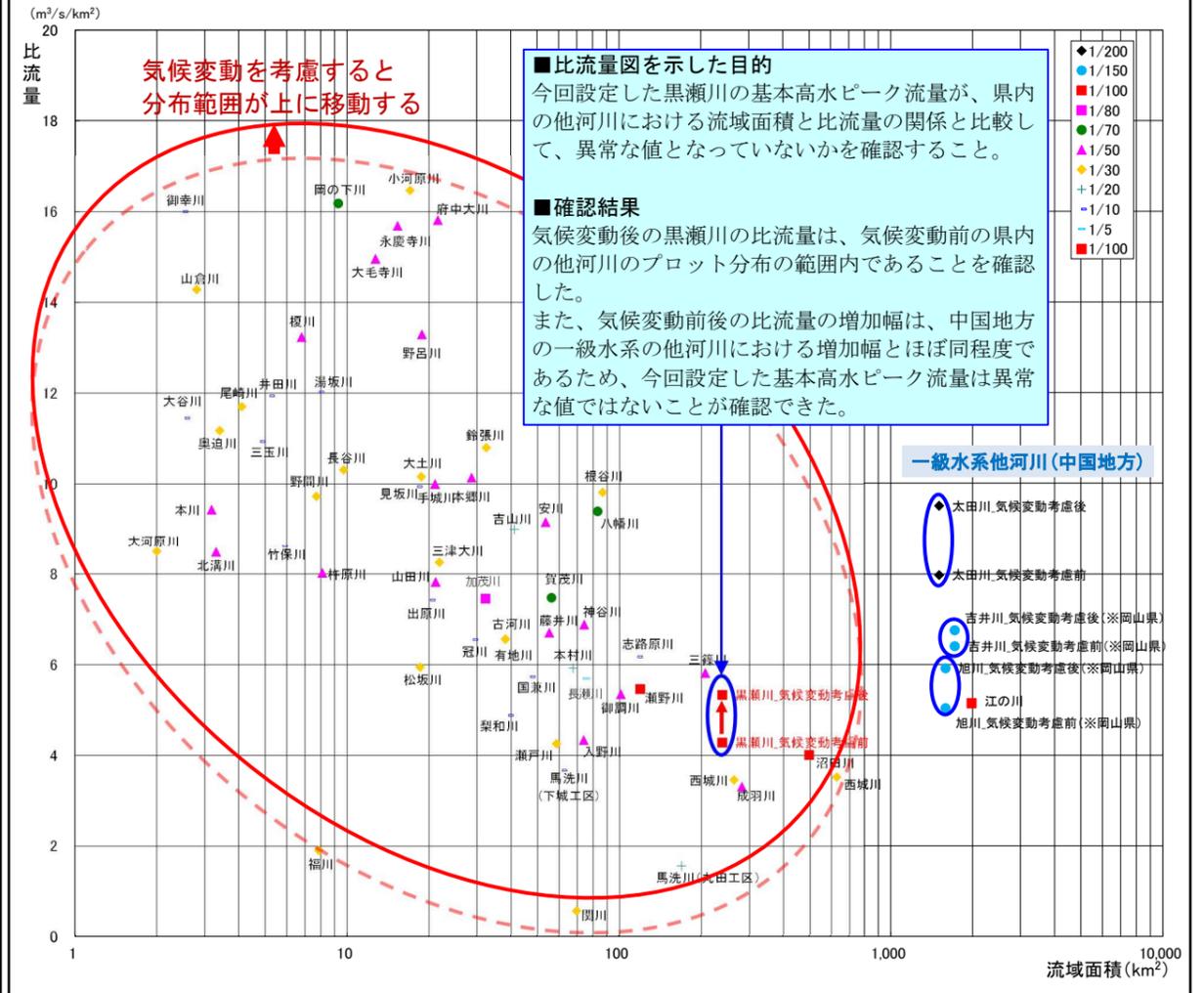


平成 25 年 6 月 20 日型洪水
均一型 (C3)

[巻末 2]

【意見内容】

○内田委員
 比流量の比較で、気候変動を考慮した黒瀬川とその他で「バランスが取れている」という表現はおかしいのではないか。この図を示す目的を示してほしい。



今回検討

【短時間棄却の確認】

計画対象洪水群について、1 時間雨量と 3 時間雨量が異常引き伸ばしになっていないか確認した結果、新たに棄却される洪水はないことを確認した。

No	洪水名	247.8 mm/24hr		2倍棄却判定	時間分布												棄却判定	倍率 (気候変動後)
		24hr雨量 (mm)	倍率		1hr雨量 (mm)			3hr雨量 (mm)			6hr雨量 (mm)			12hr雨量 (mm)				
					実績値	引伸後	判定	実績値	引伸後	判定	実績値	引伸後	判定	実績値	引伸後	判定		
1	H. 5. 7. 2	126.2	1.964	○	12.8	25.1	○	36.7	72.2	○	63.4	124.4	○	94.1	184.8	○	○	2.164
2	H. 5. 7. 27	157.9	1.570	○	27.7	43.5	○	47.6	74.7	○	67.9	106.6	○	124.9	196.1	○	○	1.729
3	H. 11. 6. 29	153.7	1.612	○	47.6	76.7	×	115.5	186.2	×	134.4	216.6	×	143.1	230.8	○	×	1.776
4	H. 13. 6. 20	141.1	1.757	○	22.6	39.6	○	42.3	74.3	○	63.7	112.0	○	119.4	209.8	○	○	1.935
5	H. 16. 8. 1	129.0	1.921	○	17.2	33.0	○	43.9	84.3	○	80.1	153.8	○	101.4	194.8	○	○	2.117
6	H. 17. 9. 7	174.1	1.423	○	25.8	36.7	○	67.1	95.5	○	121.7	173.2	○	157.2	223.7	○	○	1.568
7	H. 21. 7. 25	189.3	1.309	○	35.7	46.8	○	98.4	128.8	○	152.0	199.0	○	180.0	235.6	○	○	1.442
8	H. 22. 7. 14	125.3	1.978	○	30.1	59.5	○	57.7	114.2	○	73.3	145.0	○	100.3	198.3	○	○	2.180
9	H. 25. 6. 20	143.0	1.732	○	13.1	22.7	○	36.6	63.4	○	63.9	110.7	○	111.9	193.8	○	○	1.909
10	H. 25. 9. 4	153.9	1.611	○	15.4	24.8	○	38.8	62.6	○	60.0	96.6	○	90.1	145.2	○	○	1.774
11	H. 28. 6. 23	124.7	1.987	○	22.6	45.0	○	52.5	104.4	○	74.2	147.4	○	104.2	207.0	○	○	2.189
12	H. 30. 7. 5	305.3	1.000	○	48.6	48.6	○	90.0	90.0	○	126.5	126.5	○	223.6	223.6	○	○	1.000
13	R. 3. 7. 6	189.6	1.307	○	30.8	40.2	○	84.8	110.8	○	135.6	177.2	○	167.2	218.6	○	○	1.440
14	R. 3. 8. 14	180.6	1.372	○	33.7	46.2	○	52.0	71.4	○	67.2	92.2	○	98.2	134.7	○	○	1.512